

「鳥獣被害対策」の取り組みについて

1 これまでの取り組み（成果）

- ・平成 24 年度の抜本強化以降、防護柵設置による「守り」と捕獲による「攻め」の両面から対策を強化。
- ・「守り」では、被害ゼロを目指して集落ぐるみで取り組むモデル集落を育成、平成 27 年度からは、被害集落の半減に向けて 3 年間で 500 集落の支援を実施。
- ・「攻め」の捕獲では、シカの年間捕獲目標 3 万頭の達成に向けて、狩猟者の確保と育成、くくりわなの無償配付や捕獲報償金の支援などで捕獲対策を強化。

【成果】

- ・被害額は減少傾向、シカ・イノシシとも捕獲頭数が大幅に増加。
- ・H27～H29 年度に 572 集落を支援 → 合意形成：500 集落（合意形成率 87%）

2 課題

- ・被害額は 2 億円余と依然として高い状況にあり、引き続き支援を必要とする深刻な被害集落が 700 集落存在。また、これまで支援して合意形成した集落へのフォローアップも課題。
- ・シカの捕獲頭数は、目標 3 万頭の 7 割程度で平成 27 年度から捕獲数の伸びが鈍化。捕獲の 8 割を占めるわな猟に重点を置いた捕獲の強化と、生息数が減少し生息域が拡大したことで、広域化・低密度化により捕獲しづらくなったシカの効果的な捕獲方法の検討が課題。

3 今後の取り組みの方向性

- (1) 被害集落の早期解消に向けた防除対策の強化
- (2) シカ捕獲目標 3 万頭の早期達成に向けたわな猟の強化

4 平成 30 年度の取り組み

- (1) 被害集落の早期解消に向けた防除対策の強化
 - ・野生鳥獣に強い高知県づくり第 2 期の推進
H30 年度から 3 年間で 500 集落を支援（目標：合計 1,000 集落の被害ゼロ）
H30 年度支援集落：170 集落
 - ・第 1 期等で合意した集落へのフォローアップの実施
H30 年度フォローアップ対象集落：102 集落
 - ・野生鳥獣に強い県づくり事業費補助金によるシカ用防護柵やサル用防護柵設置等への支援
- (2) シカ捕獲目標 3 万頭の早期達成に向けたわな猟の強化
 - ・狩猟者の確保と捕獲技術の向上による捕獲頭数の底上げ
 - ・狩猟者の技術に応じた使い勝手の良いくくりわなの購入を支援しシカの捕獲を推進
 - ・ICT を活用した大型囲いわなによる新たなシカ捕獲の実証実験
 - ・狩猟期間の延長（3月15日を3月31日まで延長）
 - ・捕獲した鳥獣の有効活用を推進するため、官民協働による研究会活動やジビエフェアの開催
 - ・安定供給の体制づくりを目指した処理施設への搬入や処理施設での産業廃棄物の処理を支援
 - ・集落活動センターにおけるジビエ活用事業への支援
ゆすはら西処理施設での処理頭数：54 頭（5/18 現在）

被害「ゼロ」を達成した集落での成功事例を県内に波及する野生鳥獣に強い高知県づくりを進め、人材の育成や狩猟者の確保、獣肉の活用など、総合的な対策を推進

守り

防除 (防護柵の設置などの防除)

捕獲 (わなや銃による捕獲)

攻め

野生鳥獣に強い高知県づくり「第2期」のスタート

◆被害「ゼロ」を達成した集落の成功事例を普及拡大するため、被害の深刻な集落を対象に3年間で500集落を支援し、対策への合意形成を推進

【第1期(H27～29年度)】572集落を支援 →500集落で合意形成(87%)

【第2期(H30～32年度)】引き続き3年間で500集落を支援 →目標:合計1,000集落の被害ゼロ

◆第1期等で合意した集落のフォローアップも実施

集落ぐるみの被害対策について合意形成を支援



総合支援

①鳥獣被害対策専門員配置事業委託料

◆鳥獣被害対策の総合的な窓口として (45,808千円)

野生鳥獣に強い高知県づくりを推進(12JA16名)

被害の深刻な集落を対象に3年間で500集落を支援



これまでの合意形成集落もしっかりフォロー

※推進チーム(鳥獣被害対策専門員・市町村・鳥獣対策課・農業振興センター・林業事務所等)による総合的な支援を実施

③鳥獣被害防止総合対策交付金 (国費)

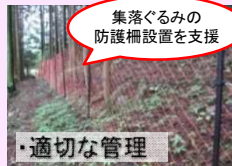
◆被害防止計画に基づき事業に取り (457,410千円)

組む市町村有害鳥獣被害対策協議会等に交付

- ①推進事業(1/2以内、定額)
捕獲機材の購入、捕獲報償金等
- ②整備事業(1/2以内、5.5/10以内、定額)
防護柵の設置、処理加工施設の整備等



・効果的な設置



・適切な管理

集落ぐるみの防護柵設置を支援

②野生鳥獣に強い県づくり事業委託料

◆鳥獣被害対策専門員の (4,836千円)

活動を野生動物の専門家として科学的にバックアップ

専門知識で被害対策への科学的助言等を実施



④野生鳥獣に強い県づくり事業費補助金

◆市町村の実施する防護柵の設置や (27,200千円)
サル用防護柵の設置など、国の交付金の対象とならない事業について、きめ細かに支援

- ①防護柵設置事業
シカ:2/3以内
(市町村負担1/6以上)
シカ以外:1/2以内
- ②サル用防護柵設置モデル事業
モデル設置:定額
- ③捕獲推進事業
くくりわなの維持補修に係る経費:1/3以内

市町村の取り組みをきめ細かに支援



入れない...

シカの年間捕獲目標「3万頭」の早期達成に向けて「わな猟」に重点を置いた捕獲の強化



(1) 狩猟者の確保と育成

新規狩猟者の確保と捕獲技術の向上による捕獲頭数の底上げ

①狩猟フォーラム開催等委託料 (5,826千円)

・狩猟フォーラムとわな猟体験ツアーを一体的に実施することで狩猟者を確実に確保



狩猟フォーラムや体験ツアーで捕獲の担い手を確保

②新規狩猟者確保事業費交付金 (4,040千円)

・狩猟免許取得のための予備講習会受講料7,000円や銃の射撃教習受講料37,000円の定額支援

未登録者等の登録促進や技術力アップ

③狩猟者登録促進事業 (1,320千円)

・未登録者等の参画促進のためのわな製作講習会の開催



④捕獲技術講習委託料 (2,500千円)

・わな名人による講習会やマンツーマン指導での技術向上

(2) 捕獲の推進

シカ捕獲の約8割を占めるわな猟に重点を置いた捕獲の推進と効果的な捕獲方法の検討

拡充

⑤シカ捕獲推進事業費補助金 (23,500千円)(森林環境税活用)

・地域や技術に応じた使い勝手の良いくくりわなの購入を支援



500

⑥シカ捕獲事業委託料 (5,000千円)(森林環境税活用)

・山岳地などの捕獲困難地域でシカ捕獲を実施

見回りなどの負担を軽減し効率的・効果的にシカを捕獲

⑦シカ個体数調整事業費交付金 (54,304千円)

・狩猟によるシカ捕獲に対する報償金制度で捕獲を推進

新

⑧指定管理鳥獣捕獲等事業委託料 (12,800千円)

・効果的な捕獲方法を検討するため、ICTを活用した囲いわな等による新たなシカ捕獲の実証実験を実施



バランスのとれた総合対策の推進

支援の継続・加速化

中山間地域の暮らしや生活をしっかり守る

野生鳥獣に強い高知県づくりの強化

鳥獣被害とみんなで戦う元気な集落



【目標】合計1,000集落の被害「ゼロ」

拡充

⑨ジビエ活用推進事業委託料 (11,700千円)

・研究会活動やジビエフェアの開催等による消費拡大の推進
・安全・安心なジビエの供給に向けた狩猟者への講習会
・安定供給の体制づくりを目指し、処理施設への搬入や産業廃棄物の処理等を支援

地域資源の有効活用

